

## モンタナでの留学生活

熊本県立大学

総合管理学部総合管理学科

4年 堀内 麻友美

私が本学の留学を考え始めたのは、ちょうど二年生に上がったころでした。動機は主に二つ。一つ目は、何か自分にしかできないことをこの大学生活四年間でやってみたい、という大学生活に対する期待感。二つ目は、当時バイトでイタリア料理店に勤めており、さまざまな国からいらっしゃるお客様と接する際、自分の英語力の不足からその必要性を切実と感じた経験からでした。しかし、留学前の私は、アメリカについての知識は非常に薄く、長期留学経験もなかったため、漠然とした不安と期待で日本を発つまでの日々を過ごしていたのを覚えています。10カ月のモンタナ留学を終え、一番に言えることは、この経験は本当に宝です。英語力はもちろんのこと、多くの出会いによって改めて自分自身を見つめなおし、成長することができました。ここでは、主にモンタナ州立大での授業、大学生活、ボランティアについて紹介します。

### 授業について...



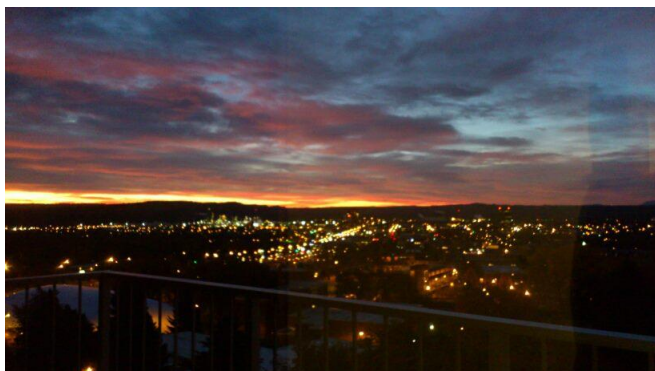
左の写真はモンタナ州立大学ビリングス校の外の様子です。夏には七面鳥、ウサギ、リス、などが見られ、冬には鹿をよく見かけます。

モンタナ州立大では前期(9月~12月半ば)と後期(1月半ば~5月はじめ)の、2セメスターを受けさせていただきました。前期はreading, writing, ネイティブアメリカンの歴史と現状、ヨガ、クラシック音楽、後期は、世界の地理、統計学、ビジネス基礎、パブリック

スピーキング、ベリーダンスのクラスをとりました。

特に、印象に残った授業三つを紹介します。初めに、ネイティブアメリカンの歴史と現状について。この授業では、ネイティブアメリカンがいかにして植民されていったのかという歴史と、現代におけるネイティブアメリカンの社会問題について学びました。アメリカの歴史を、アメリカ人の立場で学んだことがなかった私にとって、本当にゼロからのスタートで、とても苦勞しましたが、非常にいい経験でした。特に、クラスメイトには多くのネイティブアメリカンの学生がおり、その学生とともにネイティブアメリカンの差別の歴史の講義を聞いた際は、ネイティブアメリカンの学生はどう思いながらこれを聞いているのかなど、いろいろなことを考えました。この授業はたくさんのマイノリティで成り立つ多民族国家のアメリカを肌で感じた経験でした。二つ目は、世界の地

理の授業。この授業では、世界の国々の地理と社会情勢、経済について学びました。特に、印象に残ったことは、中国の歴史を学ぶ際に南京事件の話がピックアップされ、日本が何をしたということがとても強調されていたことです。日本での社会科の授業で、そのような事実を歴史の一環として習ったことはありましたが、アメリカでその歴史がわざわざピックアップされ学ぶとは思っておらず、日本という国を初めて客観的に見る事ができた経験となりました。またこの授業で、期末に 10 分ほど日本を紹介する時間を設けて頂き、



プレゼンをさせていただきました。私はアメリカの学生と交流する中で、アメリカ人の日本に対するイメージが東京や電化製品といったイメージを知り、ビジネス以外にもっと温かみのある、身近に感じられる日本を知ってほしいと思いました。そこで、特にプレゼンでは自分の家族、友達、バイト先、熊本県について説明しました。このプレゼンで、インターネットサイトでは見

ることのできないリアルな日本での生活を伝えることができ、日本をもっと身近かな存在に感じてもらうきっかけになったと思います。三つめは、パブリックスピーキングという授業です。この授業では、毎回さまざまな種類のスピーチを考え、5分また長い時は9分なという時間内にスピーチをするといった授業でした。今まで英語でスピーチをしたことがなかった私にとって、とてもハードルが高く、一番緊張した授業でした。よく、図書館の個室で、時間を測りながらスピーチの練習したのを覚えています。全体を通して、モンタナ州立大での授業は毎回に新しい発見があったり、新しい友達ができたりなど、とても充実していました。毎回エッセイなどの宿題があるので、授業が終わったら、または朝早起きして、よく勉強していました。左の写真は朝から、勉強していたときに朝焼けが綺麗だったので、寮の窓からとったものです。

## ルームメイト



大学生活は、日本とは大きく違い新しい生活環境で大変なこともありましたが、とても楽しい思い出をつくることができました。学校では、ルームメイトと寮で一年を過ごしました。ルームメイトはモンタナ出身の19歳でとても面白くフレンドリーな子でした。よく夜になると一日にあったこと悩み相談、家族の話、友達の話、などをし合ったのを覚えています。言葉や国籍を超えて話し合い、意気投合できたルームメイトとの時間はかけがえのない時間です。左の写真はルームメイトと私と他の日本人の友達で、新年にニューヨークにいったときにとったものです。右はルームメイトの誕生日パーティーを友人とサプライズで開いたときのものです。

## 学校での行事



学内のイベントもさまざまなものがありました。ここではハローウィン、インターナショナルフードフェアなどがありました。ハローウィンでは、アメリカにきてまだ2カ月もたっていない時期であり、アメリカ文化に初めて触れた経験でもありました。

写真はハローウィンのときのものです、

上は皆が仮装して踊っている様子です。アメリカ人の学生の仮装はとて凝っていて派手なメイクアップをしている人や、真っ赤のカラーコンタクトレンズをつけてる人などがいて、とても面白かったです。

ほかには、インターナショナルフードフェアがありました。これはさまざまな国からの留学生が、地元の学生、また地域に住む方々を招いて各国の料理を自分達で作り売るというものです。日本人の私たち三人は、親子丼と肉じゃがを作り、売りました。写真はそのフードフェアのときの様子です。

このイベントはビルングスのなかでも特に大きなイベントで、地元の新聞にとりあげられるほどでした。



# アメリカ流の休日

アメリカの大学は毎回の授業でなにかしら宿題が出されるため、平日は皆いつも宿題に追われています。しかし金曜の夜から土曜になると、学生はリラックスモードに入り、パーティーをしたり、バーに飲みに行きます。私は、前期は勉強で手一杯だったので休日



日もよく勉強していました。しかし、後期になり、だんだん授業に慣れてくると、土日はよくドイツ人の友達や地元の大学生と出かけたり、ビールを一緒に飲みながらいろいろなことを話しました。ちなみに、その友達とすごく意気投合して、休日を利用してイエローストーン国立公園というところへ二泊三日で旅行に出かけました。この写真は、イエローストーン公園内で、バッファロー

の群れが道を堂々と歩いており、交通渋滞を起こしている状況です。私は、生まれて初めて見たバッファローが群れとなって車道を堂々と歩行している光景に大興奮でした。

# ボランティアでの出会い

また、学校外でもボランティアを通して、たくさんの素敵な出会いがありました。特に印象に残った出会いをひとつ紹介します。それは、1人のおばあちゃんとの出会いです。私は、大学生活の中、シニア向けに作られたアパートに何度かボランティアとして訪問させていただきました。そして、そのときに、私は素敵な104歳のおばあちゃんに出会いました。彼女は日本はもちろんのこと、世界の国々を一周をしたことがある方で、とても色々な国に関しての知識が豊富な方でした。そのおばあちゃんは歳のせいで、盲目で難聴になってしまっていました、が世界各国を訪れた時のお話を聞いていると、その場所に行ったことのない私でも、目の前に広がるいろいろな風景を想像することができました。そのアパートには何回か足を運びましたが、彼女との時間は、ほんとかけがえのない時間であり、おばあちゃんの頭の中にしっかりと焼き付いている過去の素敵な思い出を分けていただけたいい経験でした。また、100歳を超えているのにもかかわらず、とにかく元気でおしゃれが好きなおばあちゃんを見ていると、私まで元気をいただいたのを覚えています。

最後に、

私は、この留学生活でここには書ききれないほどのたくさんの素晴らしい人に出会い、いい意味でとても刺激され成長することができました。本当の家族のように可愛がってくれた、ホストファミリーの方、また淋しきや辛さをともに共感して、深い話まですることができた他の国からの留学生、何よりいつも身近にいたルームメイト。全ての出会いとその人たちとの時間が、私にとって宝であり、今後の私の人生を大きく変えていくきっかけとなると確信しています。また、私が何度も学校が辛く帰りたと思った時、支えてくださったのは日本にいる友人や家族でもありました。そういった支えがあったからこそ、頑張り続けられたのだと思います。私は、この留学で自分が周りの支えなしではどれだけ無力か、そしてどんなにくじけてもチャレンジし続けることの大切さを知りました。また、日本に帰ってきて思うことは、まだまだ日本の学生は世界各国の国々と比べて、グローバル化に後れをとっているのではないかと思います。日本人の英語力で考えても、やはり他の国と比べるとアメリカ人にとってまだまだ日本は訪れにくい国だと私は思います。私がモンタナで受け入れてもらえたように、日本でたくさんの外国人を受け入れ、日本の良さをもっと外に知ってもらうために、私は何らかの形で海外と日本のかけ橋になればいいと思います。また、機会があれば、自分に貴重な体験を与えてくれたビリングスに行き友達を訪ねたいと思います。